

LEARN TO LEAD



KEIO MBA

慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Graduate School of Business Administration, Keio University

2015

LEARN TO LEAD

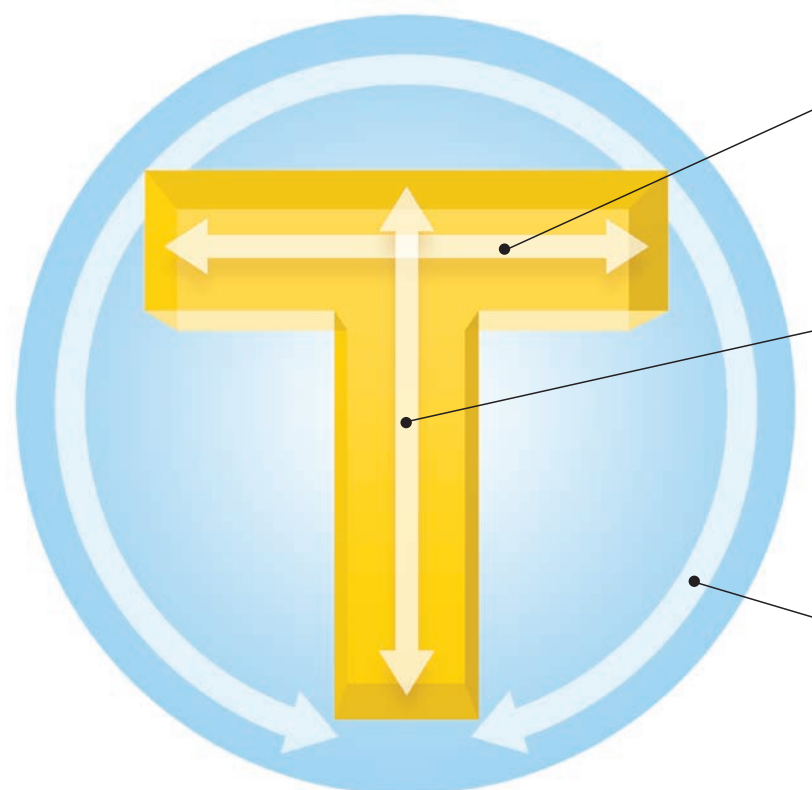
グローバル社会のビジネスリーダーとなるために。

1962年の創立以来、慶應義塾大学大学院経営管理研究科(KBS)は、慶應義塾伝統の「実学の精神」のもと、ケースメソッドによる実践的な教育を基盤として、ダイナミックに変化する現代のビジネス環境で新たな構想を作り実現していくビジネスリーダーを育成してきました。世界一線級の研究者である教員と、多様な職業経験と学歴を持つ学生たちとともに過ごす濃密な2年間。グローバル社会で指導的役割を果たすための資質を身に付け、リーダーとして必要な意思決定能力を磨く。これからの日本、そして世界のために、新しい社会を先導するビジネスリーダーを育成する。それがKBSの使命です。

KBS MBA = 教育の質² × 量²

不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、膨大な情報から本質を見抜いて戦略意思決定を行う。ビジネスリーダーには高度な情報分析能力と判断能力が要求されます。そして、自らの分析と判断に基づき、社会と組織を先導することのできる使命感や情熱、リーダーシップが必要です。KBSの、国際水準の教育の質と圧倒的な学習量によって、このような多くの素養を身につけることができます。1年次の基礎科目では、マネジメント能力の基盤となる8つの主要領域を実践的なケースメソッドで学び、総合演習科目でそれらを領域横断的・有機的に活用する方法を学びます。2年次には、ビジネス上の強みとなる専門能力を深化させるため、各自のキャリアプランに応じた専門科目群を履修しつつ、少人数制のゼミナールで問題発見・解決能力を磨きます。さらに、国際的なビジネス感覚を養うための各種国際プログラムを用意しています。

LEARN TO LEAD—KBSのカリキュラムは、リーダーとなるための幅広いマネジメントスキルと深い専門性、それらを総合し発展させるための方法論を提供します。



経営に関する基盤知識の獲得

主要8領域の基礎科目

総合演習科目

経営に関する各領域を幅広く理解する

特定領域の能力、知識の獲得

専門科目

ゼミナール

修士論文

国際プログラム

学生個々の興味と素質に応じた、将来のキャリア形成に役立つ専門能力と知識を深く学ぶ

リーダーとしての資質の獲得

ケースメソッドを中心とした実践的教育

使命感、強い精神力、深い洞察力、創造性、広い視野など、組織と社会のリーダーに必要なとされる資質を磨く

慶應型ケースメソッド

日本におけるケースメソッドの先駆

ケースメソッドとは、80余年前にハーバード・ビジネススクールが中心となって開発し、改良してきた実践的な経営教育の方法です。ケースメソッド授業は、実際の経営状況をまとめたケースを素材に、ディスカッションを通して新しい知恵を共創します。日本においてはKBSが初めて導入し、過去50余年間にわたり研究を重ね、日本のビジネス環境に適応した「慶應型ケースメソッド」として独自に発展させてきました。

「慶應型ケースメソッド」の強み オリジナルケースの開発と、ケース開発者による授業展開

KBSには、3,500余りのオリジナルケースの蓄積があり、さらに毎年100本程度の新作ケースが登録され、常に最先端の経営知見がアップデートされています。KBSのケースには、教員が企業経営の当事者にインタビューした、ありのままの出来事が書かれています。そこには、事実が記してあるだけでなく、教育の場で取り上げる訓練主題が含まれ、受講者を登場人物の立場に立たせ、その責任において意思決定を迫るように表現されています。そして、実際にそのケースを書いた教員が授業を展開していきます。

KBS Mission Statement

KBS は新たな構想を作り実現するリーダーを育成する。
 そのために、多様な学生がともに学ぶ喜びを知り、世界一線級の研究を発信し、
 実務経験と体系的知識を融合する場を提供する。

Keio Business School develops leaders who can envision and materialize original business concept.
 Here scholars and students of diverse backgrounds find enjoyment in learning together,
 deliver world-class research, and integrate academic theory with business experience.

沿革

- 1956 戦後日本の産業立て直し、近代化を推し進める経営者を育成すべく、ハーバード大学ビジネス・スクールと共に「第1回慶應・ハーバード大学高等経営学講座」を開講。
- 1962 「経営専門家の養成教育実施」というわが国教育制度上画期的な構想を目的に掲げ、日本初の大学ビジネス・スクールである慶應義塾大学ビジネス・スクールを設立。
- 1969 大学院レベルの長期プログラム、1年制教育課程を開講。
- 1978 専門的経営管理者の育成と経営管理諸分野における高度な研究の推進を目的とした、大学院経営管理研究科修士課程を開講。
- 1991 「実学」の理念とケースメソッドの有用性を理解し、大学院や専門研究機関で教育・研究に従事する人材を養成すべく、大学院経営管理研究科後期博士課程を開講。

KBSウェブサイトのご案内

<http://www.kbs.keio.ac.jp/>



KBSの最新ニュース、学生の活動、入試やオープンキャンパスの情報、ケースメソッド授業の動画など、さまざまなコンテンツを提供しています。

世界基準の教育品質保証と国際ネットワーク

KBSは、常に目標を世界のトップクラスに掲げ、高度な教育の質を確保してきました。教育品質の保証のため、日本で唯一、2大国際認証機関(AACSB International, EQUIS)によるグローバル基準での客観的評価による認証を継続して得ています。また、世界規模の研究と教育に関する交流を推進するため、国際的なビジネススクールのネットワークに加盟し、共同研究・教員交流・学生の交換留学を積極的に行っています。

なお、仏SMBG社が毎年発表している、世界のビジネススクールを評価する「Eduniversal Worldwide Business Schools Ranking」にて、KBSは日本部門第1位にランクインされ、かつ世界のビジネススクールの中でも最高ランクを獲得し続けています。



AACSB International
 Association to Advance
 Collegiate Schools of Business

認証校 全世界639校、アジア32校、日本2校



EFMD
 European Foundation for
 Management Development

認証校 全世界131校、アジア20校、日本1校



AAPBS
 Association of Asia-Pacific
 Business Schools

アジア・大洋州地域130校の
 ビジネススクールによる
 研究・教育水準向上を推進する協議会



PIM
 Partnership in International
 Management

世界60校のビジネススクールが
 加盟する研究・留学ネットワーク



**Eduniversal Worldwide
 Business Schools Ranking**

仏SMBG社による
 世界ビジネススクールランキング

「独立自尊」のビジネスリーダーへ。

KBSが重視するのは、単なる経営技術の専門的教育ではありません。企業の進むべき方向を確立し、その目標の合理的実現に向かって各職務・部門の活動を最高度に発揮させる、「総合的管理能力」を育成するための教育・訓練です。授業の多くはケースメソッドで行われます。幅広い知識を得るだけでなく、教員・学生同士が相互に教え合い議論することを通じて、自身の意思決定に真摯に向き合い、かつ他者の考えを尊重する「独立自尊」のビジネスリーダーを目指します。

基礎科目

総合的経営管理能力の基本となる主要8領域を学ぶ必修科目

KBSでは、総合的経営管理能力の基本となる主要8領域を1年次に徹底的に学びます。そして、その方法は講義中心ではなく、ケースメソッドによります。それは、経営の原理原則だけに依存せず、そこからは予測できない要因も含めて自ら分析し合理的な意思決定を下す訓練をするためです。

■ 会計管理

経営の計数管理に不可欠な会計情報について、簿記や財務諸表等の基礎知識および財務比率や管理会計手法などの分析能力を身につけます。

■ 経済・社会・企業

人・組織をとりまく外部要因に対する理解を深め、外部環境変化に対する企業組織経営のあり方についての判断能力を養成します。

■ 経営科学

情報と論理的思考を駆使して経営課題の解決や意思決定の質を高める定量分析の具体的な方法論、および合理的な意思決定手法について学びます。

■ 財務管理

ファイナンスと経営財務の基礎、企業価値評価手法、資本コスト算定、経営戦略の手段としての財務戦略やM&A、企業再生等について学習します。

■ 組織マネジメント

経営者として組織をいかにマネジメントするか、「組織における人間行動(ミクロ組織行動)」と「経営における組織と戦略(マクロ組織行動)」の2つの視点から学びます。

■ 生産政策

企業活動において製品やサービスを提供する「生産・供給機能」とそのためのオペレーションに焦点を当て、課題を発見・分析・改善する視点を養います。

■ マーケティング

顧客が真に求める製品やサービスを作り、届け、その価値を表現し、そして伝達する、効果的マーケティング手法を学びます。

■ 総合経営

企業の経営政策・戦略上の諸課題について、トップ・マネジメントの視点に立つて戦略立案並びに実行を指揮するための方法論を学びます。

総合演習科目＝「ビジネス・ゲーム」

自身の経営管理能力のレベルを判断する

1年次に2泊3日の合宿形式で行われる「ビジネス・ゲーム」では、実際の日本の鉄鋼業をモデル化した模擬経営を行います。基礎科目で学ぶ概念や技能を駆使した企業間競争の展開を通じて、経営の各分野間の協調の重要性とマネジメントの役割についての認識を深めます。模擬経営は戦略策定の場であり、組織生成過程の体験の場であり、経営管理制度構築の場でもあります。また、組織における人間行動の本質を見る機会にも遭遇することになります。

「実学の精神」「独立自尊の精神」 にもとづく能力形成

KBSのカリキュラムにおいて徹底されているのは、福澤諭吉の「実学の精神」です。ケースメソッドを通じて知識を実際の経営現場での意思決定に昇華させ、ビジネスゲームやゼミナール、フィールドワークなどを通して組織全体のあり方、経営者としての自身のあり方について考えます。こうした学びを通じ、まさに日本のこれからのビジネス社会を牽引する「独立自尊」のビジネスリーダーを目指します。

「半学半教」の伝統を重んじる

KBSの教育方針で大切にされているのは、慶應義塾の創立から続く「半学半教」の伝統です。1年次の基礎科目はもちろん、2年次からの専門科目やフィールドワーク、ゼミナールにおいても学友・教員と議論を戦わせる機会が充実しています。こうして得た人的ネットワークは卒業後も自身を研鑽してくれる心強い支えとなります。

専門科目

多彩な専門科目を通じて専門性を強化する

専門領域を深めるための科目を選択し、修了に必要な単位数を取得します。KBSでは、実務家教員による科目やフィールドワーク科目など、実践的な経営課題を解決するために必要とされる年間60科目以上の多種多様な科目を提供しています。これ以外に慶應義塾大学他研究科・学部設置の科目も自由科目（修了単位に含まれない）として履修することができます。

※と表記のある科目は英語で開講します

■ 会計

- ・ 経営管理会計
- ・ 財務報告分析
- ・ タックス・プランニング
- ・ 日本におけるマネジメント・コントロール ※
- ・ マネジメント・コントロール

■ 情報・意思決定

- ・ 経営科学と意思決定 ※
- ・ 交渉論
- ・ 情報と意思決定
- ・ 統計学入門
- ・ ビジネス統計
- ・ マネジリアル・エコノミクス
- ・ リスクマネジメントと危機管理

■ 組織マネジメント

- ・ グローバル・イノベーション ※
- ・ 人材・プログラムアセスメント
- ・ 人的資源戦略
- ・ ストレス・マネジメント
- ・ 組織と人間行動
- ・ 多国籍組織・戦略 ※
- ・ 日本における組織マネジメントⅠ ※
- ・ ネットワーク・リーダーシップ
- ・ 不確実性と組織のマネジメント ※
- ・ マクロ組織論

■ マーケティング

- ・ 市場戦略論
- ・ 消費者行動
- ・ 日本におけるマーケティング ※
- ・ マーケティング・コミュニケーション論
- ・ マーケティング戦略
- ・ 流通論
- ・ ロジスティクス論 ※

■ 経営環境

- ・ 医療経済学
- ・ 技術戦略の経済学
- ・ 国際経済と新興ビジネス ※
- ・ 日本の経営環境 ※
- ・ ヘルスケアポリシー
- ・ ヘルスケアマネジメント

■ 財務

- ・ 金融機関経営
- ・ 行動ファイナンス
- ・ 財務理論
- ・ 日本における財務管理
- ・ 日本証券市場論

■ 生産政策

- ・ 生産システム設計論
- ・ 生産マネジメント
- ・ 日本における生産管理 ※

■ 総合経営

- ・ イノベーションマネジメント：アジアにおける革新 ※
- ・ 企業戦略における技術と社会的インパクト ※
- ・ 競争戦略論
- ・ グローバル戦略経営論
- ・ 経営革新
- ・ 経営再建論
- ・ 経営戦略におけるアントルプレナーシップ ※
- ・ 戦略コンサルティング

■ 全分野共通

- ・ アジアビジネス・フィールドスタディ
- ・ 英語ビジネス・コミュニケーションⅠ
- ・ 英語ビジネス・コミュニケーションⅡ
- ・ 企業家論 ※
- ・ 企業倫理
- ・ 起業体験
- ・ 起業と法ワークショップ・プログラム
- ・ グッド・ビジネス・イニシアティブ
- ・ グランド・デザイン・プロジェクトⅠ
- ・ グランド・デザイン・プロジェクトⅡ
- ・ ケースメソッド教授法
- ・ 経営史
- ・ 経営実務講座
- ・ 経済性分析
- ・ 経営者と法の実務
- ・ 経営プロジェクト
- ・ 経営法学Ⅰ
- ・ 経営法学Ⅱ
- ・ 経済理論Ⅰ
- ・ 経済理論Ⅱ
- ・ 集中企業研究
- ・ 新事業創造体験
- ・ ベンチャーキャピタリスト養成Ⅰ
- ・ ベンチャーキャピタリスト養成Ⅱ



こんな科目があります

ベンチャーキャピタリスト養成Ⅰ

なぜベンチャー立上げ作業は成功したり失敗したり一見不安定に見えるのか。フェイスブックなど新事業の成功条件は何か。またその前提として、①起業家として、②会社経営者として、③事業経営・マネージャーとして、④オペレーター・社員として、新事業立上げ活動、及び

資本組織としての企業（創立と発展の本質）を、どう理解すればよいか。それぞれの立場、変化する状況から考察しながら、経営者、起業家として活動できる力量を身につけてもらいます。

本講座は、NTVPIにおけるDeNA等の、キャズムを超える創業支援体験を踏まえ、ベンチャー創業活動、経営の実際を総合的、体験的に理解します。またVCファ

ンド設立契約実務、投資候補先の評価や、投資後の長期的関与の考え方と手法を、実体験を通じて学びます。講座では、最前線の現場で活躍するベンチャーキャピタリストが、実践的に講義します。上場ベンチャー起業家や、弁護士、会計士、司法書士、社労士などのゲストも随時招きます。さらにベンチャー企業訪問や株主総会出席、チーム活動および対外交流も行います。

マーケティング戦略

本コースは、具体的事例に基づいてマーケティング戦略や事業戦略を策定することをおして、現在進行する実務に直結した意思決定を行うことをねらいとして

います。受講生自身の意思決定能力について、「腕試しする」というスタンスで受講すること期待します。本コースは、前半をケースによるマーケティングのフレームワークに関する討論と、とりあげるテーマに関する講演ならびに受講生による事例提案（シーズ紹介）にあて、後

半をグループによるフィールドワークならびにコンサルテーション（プレゼンテーション）で構成します。最終の報告会は、とりあげるテーマの経営者もしくは企画担当、およびコンサルティングファームのコンサルタントの出席のもと開催します。

生産システム設計論

製品やサービスを供給する活動や間接部門での事務作業をスリム化・効率化していくことは、戦略を実行するオペレーション・レベルの「基礎体力」を強化するためにも重要である。そのための手法や考え方を身につけるためには、実際の生産や営業の現場へ足を運んで自ら現状の仕事のプロセスを分析し、現物に触れ

ながら改善のアイデアを考えていくような実践的なアプローチが大切である。本コースでは、改善に関する基礎概念を学んだ後、実際の工場での実習活動を通じて、自ら課題を設定・明確化し、それに基づいてデータを集めて分析し、問題点や改善案を考え出す「問題解決」プロセスを、フィールドワークにより学習することを目的とする。これまでは、次のようなテーマを取り上げて実習活動を行っている。1. 営業部門からの情

報の流れの分析、発注方法・生産計画の立案方法と在庫削減 2. 組立ラインにおける作業性、品質、生産性の向上 3. 機械加工ラインにおける製品品質や生産能力の向上 4. 物流活動におけるスペース削減と工数低減、など。テーマは受講生の人数と希望に応じて毎年3・4テーマを設定し、数名のグループ単位で実習作業を行い、実習先企業での報告会とグループレポート提出を行う。

世界トップビジネススクールに留学のチャンス。

IP

国際単位交換プログラム (International Exchange Program)

プログラムの特徴

豊富な協定校

世界各国トップレベルのビジネススクール協定校が45校(2014年5月現在)、留学のチャンスが豊富にあります。協定校はアジア、欧州から北米まで幅広く、自身の将来のキャリアに合わせて様々な観点から留学先を選択できます。協定校によっては高度な英語力を要求されますが、一定の英語力に達していれば留学できる協定校も豊富にあるため、広く留学のチャンスがあります。

短期の留学プログラム

最短でも1年間の留学期間になるダブルディグリー・プログラムと異なり、留学期間は4ヶ月間と短期間であるため、過去に海外に長期留学した経験のない学生でもチャレンジしやすいプログラムです。

留学前の学習サポート

2014年度より入学時にTOEFL受験を新入生全員に課しています。なるべく早い段階で自身の英語力を確認することで留学への意識を高め、効率的な学習計画を立ててもらうことを目的としています。早期に英語力アップのための学習に取り掛かることで、英語力に自信のない学生も留学の機会を得られるよう、また留学を目指す学生がより多くの選択肢を持てるようになります。また1年次1学期より英語でのコミュニケーションの訓練を目的とした授業や、協定校からの留学生も参加するすべて英語で実施される授業を多く設置しているため、日本にいながら留学までに必要なコミュニケーションスキルを習得することができます。

留学しない学生にも メリットがあります

2学期(9月～12月)および3学期(1月～3月)に協定校からの留学生を受け入れ、一緒に英語の授業を受講できます。海外留学を選択しない場合でも、KBSにいながら海外のMBA学生とのディスカッション・異文化交流をすることができます。

応募資格

※応募資格は変更になることがあります。詳細は入学後に説明会があります。

本研究科正規生で、入学次年度に第2学年生として在籍する者

- ① 1年次2学期修了時までの基礎科目の平均点が基準点以上である者
- ② 協定校で勉強するに足る語学能力と動機を有する者
※TOEFL点数が基準点以上
※留学を希望する相手校によっては独自の基準点を義務付けている場合がある
- ③ 本研究科修士課程の課程修了見込者
- ④ 第2学年9月から12月までを海外で過ごすため、出発前の期間で修士論文の見直しをつける展望・意欲・決意を有する者

留学先での履修単位

留学先で取得した単位は、留学先のMBAコース正規科目に限り、8単位を超えない範囲で本研究科課程修了に必要な単位として認定することができます。

費用

留学先での登録料と授業料は免除されますが、渡航費、生活費、教科書代、保険代等その他の留学諸経費は個人負担となります。

留学体験者の声

各校の特色

Tuckは学生数が1学年280名程度で、昨今のMBAトップ校では数少ない、小さいコミュニティーで教育の質を保っている学校でした。そのお蔭で、教授陣からのサポートが手厚く、レポート課題の相談や講義の後の追加質問などのために、十分な時間を頂きお話することができました。
(Tuck School of Business at Dartmouth 2013年度留学)

特徴的な授業

“Medical Care and the Corporation”

グループに分かれ、実際にクライアントを持ち1学期間かけてコンサルティングするプロジェクトを行いました。チームメンバーは、MBA生だけでなく、医学部生や公衆衛生研究科の大学院生など、ダートマス大学内の他の学生とも協力しながら、クライアントの為に問題解決と提案を行いました。アメリカの医療の提供体制や保険制度など、新しく勉強しなければいけないことが多くありましたが、医学部生などの力を借りながらリサーチしました。一方で、プロジェクトマネジメントの面ではMBA生として力を発揮し、チームのベースをつくっていくことや、クライアントの要望に応えることができているか軌道修正することで貢献できました。クラス内で新しい知識をインプットしながら、プロジェクトを通してクライアントに対しアウトプットできた経験は、短期間でしたが実践的でした。
(Tuck School of Business at Dartmouth 2013年度留学)



© University of Mannheim



国際単位交換プログラム 2年間の流れ

第1学年			第2学年		
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
4月～8月	9月～12月	1月～3月	4月～8月	9月～12月	1月～3月
KBSでの 科目履修			留学先での 科目履修	KBSでの 科目履修	
■ 新入生向け説明会 ■ 募集説明会		■ 募集開始	■ 出発直前説明会 ■ 帰国後報告会		



滞在中の生活

8カ国の学生達とハウスシェアをしながら生活をしていたのですが、全員が母国外で生活をする外国人という環境下であるからこそ、お互いの生活習慣や考え方の違いを実感する事ができ、非常に貴重な経験となりました。彼らハウスメイトとは、様々なネットワーキングパーティーに参加し、ヨーロッパ各地を共に旅行するなどして、生涯の友となる事ができました。

(IE Business School 2013年度留学)

課外活動

Kelloggの課外活動で最も有名だと言われているのがKWEST(Kellogg Worldwide Experience & Service Trip)といわれる一年生向けのボランティア旅行です。世界中で同時期にボランティア活動や様々な課外活動に挑戦します。KWESTでのルールはただ一つ、自分の名前以外は一切の個人情報を明かしてはいけないこと。全ての先入観や固定概念を取り払った上で、初対面の25名と一週間旅をすることで、今までいかに様々な先入観に影響されてきたかを実感できました。そこでできた仲間は特別な存在となりました。

(Kellogg Graduate School of Management, Northwestern University 2013年度留学)

海外MBA取得を 国際キャリアのアドバンテージに。

DD

ダブルディグリー・プログラム (Double Degree Program)

プログラムの特徴

最短2年間で2つの大学院から学位を取得

KBSと留学先で1年ずつ学び、2年間 (WHUとのプログラムは計2年半) で両校の正規修了生として計2つの学位 (MBA) が授与されます。国際単位交換プログラムと比較して取得しなければならない科目数が増えるほか、語学力や異文化対応能力なども要求される厳しいプログラムですが、修了後に海外での就職を視野に入れている方や、国際関係のキャリアを希望する方には、海外トップビジネススクールのMBAも取得できることは非常に大きなアドバンテージとなるため、ぜひ挑戦していただきたいプログラムです。

長期の留学プログラム

ダブルディグリー・プログラムは1年間の留学期間となるため、より専門性を極めた履修計画を立てることができます。異文化にどっぷり浸かることで確かな国際感覚を身に付けることができます。



ESSEC Business School



HEC Paris



WHU - Otto Beisheim School of Management

応募資格

※応募資格は変更になることがあります。詳細は入学後に説明会があります。

本研究科正規生で、入学次年度に第2学年生として在籍する者(国籍は問いません)

- ① 本研究科修士課程第1学年1学期と第2学期に履修した基礎科目7科目のすべてに合格し、その平均点が基準点以上であること
- ② TOEFL iBT100点以上、GMAT得点が600点以上であること
- ③ 一定年数の実務経験を有すること

留学先での履修内容

- ▶ 留学先の学校では MBA 正規科目 (専門科目) を履修することになります。履修単位は留学先により異なります。
- ▶ 留学前に「研究計画書 (Study Plan)」（英語）、全課程修了時点で「成果報告書」（英語）を提出し、それぞれ審査に合格する必要があります。「研究計画書」には、留学先で履修したい科目のリストおよび、どのような戦略や一貫性をもたせて科目選択をしていきたいか、ご自身のキャリア計画との関連などについて記載します。「成果報告書」には、履修した科目名だけでなく、課外活動を含めた広義の学問的成果、キャリア形成、異文化理解などの面において、どのような成果が得られたかについて具体的に記載します。
- ▶ KBS でのゼミナールには所属せず、KBS での修士論文は課されません。

ダブルディグリー・プログラム 2年間の流れ

第1学年			第2学年		
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
4月～8月	9月～12月	1月～3月	4月～8月	9月～12月	1月～3月
KBS での科目履修 ※1			留学先での科目履修 ※1		
■ 新入生向け説明会 ■ 募集説明会					
		■ 募集開始 ■ 研究計画書提出			
			■ 出発直前説明会		
				■ 成果報告書提出	

※1 WHUの場合、1年次の4月～2年次の7月まではKBSで履修し、2年次の9月～3年次の6月までをWHUで履修します。よってこのプログラムに参加する学生は、3年次の9月までKBSに在籍することになります。

費用

留学先での登録料と授業料は免除されますが、渡航費、生活費、教科書代等その他の留学諸経費は個人負担となります。また留学先により別途自己負担が発生することがあります。

CKJ

CoBS

海外との共同授業・共同研究

2012年度から、「アジアビジネス・フィールドスタディ」科目(通称「CKJ」)が開講されています。中国の清華大学、韓国のKAISTと3校の共同開催授業で、日中韓3カ国のMBA生が一緒に特定産業研究と戦略策定を行います。また、KBSが世界6カ国のビジネススクールと結成した、ビジネスと社会に関する協議会「Council on Business and Society」(通称「CoBS」)の共同研究プロジェクトに参画する機会が用意されています。

2013年度 アジアビジネス・フィールドスタディ

今年度の企業訪問・研究は、KAIST(韓国)がホスト校となり、“Entertainment & Media Industry”をテーマに2013年7月6日～7月13日にかけて行われました。

私達学生は、3校の混合チームを編成し、1チームにつき1つの企業を分析し、各グループで質問事項を整理した上で、企業訪問に望みました。“Entertainment & Media Industry”において、韓国企業がいかんにして言語、行動様式、価値観といった文化的制約条件を乗り越え海外市場へ進出していくかについて、各国の学生が自国の市場知識や経験談などを出し合いながら、熱い議論を繰り広げました。

現地における合同講義では、KAISTのPark教授より、3カ国間における箸の共通性(箸の機能は共通)と差異性(箸の素材は竹、ステンレス、木と各国によって異なる)という事例から、本プロジェクトを通じて3カ国の価値観の共通性と差異性の双方に着目するようとの教えを受けました。この教えを実践する形で、授業時間だけではなく1週間に渡って生活を共にすることによって、今後ますます経済的な連携を強めていく3カ国の将来を先導すべきMBA生たちの中で共通の基盤となる見識や一生に渡る友情を築くことができ、貴重な経験となりました。

黒沼 知也(2013年3月修了 M35)



Council on Business and Society 東京フォーラム

2014年3月6日(木)～7日(金)に、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館にて、Council on Business & Society(ビジネスと社会に関する評議会、以下「CoBS」)第2回年次国際フォーラムが開催され、加盟校6校の関係者、教員、現役生、関係企業の方々などを合わせて世界各国からのべ約290名が参加し、盛況となりました。

今回のフォーラムでは全体のテーマとして「Health and Healthcare」を取り上げ、3つあるセッションそれぞれの中で基調講演、パネルディスカッション、分科会が開催されました。

フォーラムは、ホスト校であるKBSの河野宏和・経営管理研究科委員長によるウェルカムスピーチから始まり、続いて公団法人医療科学研究所理事長の江利川毅氏と中外製薬株式会社代表取締役会長の永山治氏による基調講演が展開されました。その後、第1セッション「Healthy Employees, Healthy Corporations」が始まり、従業員の健康管理に対して企業が果たすべき役割や従業員のメンタルヘルスの諸問題に関して討論が繰り広げられました。

2日目の午前に展開された第2セッション「Technology and Management Innovations in Healthcare」はSAP社ヘルスケア分野のSenior Industry Advisorを務めるMartin Burger氏の基調講演でスタートし、ソフトウェア企業の立場から、技術はヘルスケアに対して、改善(improvement)・解析(analysis)・効率(efficiency)という3つの側面から貢献できると論じました。

その後は、技術・経営・ビジネスモデルを各主題とする3つの分科会が開催され、健康管理システムの重要性などについて各国の実例を取り上げながらディスカッションが進められました。

午後の第3セッション「Challenges in Managing Healthcare: Who Pays for Healthcare and How It Is Supplied?」では、各国のヘルスケアマネジメントにおける課題について議論され、理想のヘルスケアシステムについて活発な議論が交わされました。

全セッション終了後は6校の代表者による記者発表会を行い、各メディアに対してフォーラムの成果や提言を発信しました。



提携校一覧

IP 国際単位交換プログラム

DD ダブルディグリー・プログラム

CKJ

CoBS

共同授業・共同研究

アジア・オセアニア

Australian Graduate School of Management (AGSM), Australian School of Business, University of New South Wales (Australia) **IP**

Antai College of Economics & Management, Shanghai Jiao Tong University (China) **IP**

School of Economics and Management, Tsinghua University (China) **IP** **CKJ**

School of Management, Fudan University (China) **IP** **CoBS**

Indian Institute of Management, Ahmedabad (India) **IP**

Indian Institute of Management, Bangalore (India) **IP**

College of Business, KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) (Korea) **IP** **CKJ**

Yonsei University School of Business (Korea) **IP**

Asian Institute of Management (AIM) (Philippines) **IP**

NUS Business School, National University of Singapore (Singapore) **IP**

Singapore Management University (Singapore) **IP**

College of Management, National Taiwan University (Taiwan, Republic of China) **IP**

Sasin Graduate Institute of Business Administration of Chulalongkorn University (Thailand) **IP**

欧州

Solvay Brussels School of Economics and Management (Belgium) **IP**

École des Hautes Études Commerciales de Paris (HEC Paris) (France) **IP** **DD**

EMLYON Business School (France) **IP**

ESSEC Business School (France) **IP** **DD** **CoBS**

NEOMA Business School (France) **IP**

EBS Business School (Germany) **IP**

School of Management, Technical University Munich (Germany) **IP**

University of Mannheim Business School (Germany) **CoBS** **IP**

WHU - Otto Beisheim School of Management (Germany) **IP** **DD**

SDA Bocconi School of Management (Italy) **IP**

ESADE Business School (Spain) **IP**

IE Business School (Spain) **IP**

IESE Business School, University of Navarra (Spain) **IP**

The Stockholm School of Economics (Sweden) **IP**

London Business School (UK) **IP**

北米

Richard Ivey School of Business, The University of Western Ontario (Canada) **IP**

Schulich School of Business, York University (Canada) **IP**

Carlson School of Management, University of Minnesota (USA) **IP**

Columbia Business School, Columbia University (USA) **IP**

Fisher College of Business, The Ohio State University (USA) **IP**

Foster School of Business, University of Washington (USA) **IP**

The Fuqua School of Business, Duke University (USA) **IP**

Kellogg School of Management, Northwestern University (USA) **IP**

Kenan-Flagler Business School, The University of North Carolina at Chapel Hill (USA) **IP**

Leonard N. Stern School of Business, New York University (USA) **IP**

McCombs School of Business, The University of Texas at Austin (USA) **IP**

Shidler College of Business at the University of Hawai'i at Manoa (USA) **IP**

Tuck School of Business at Dartmouth (USA) **IP** **CoBS**

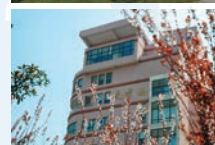
UCLA Anderson School of Management (USA) **IP**

The University of Chicago Booth School of Business (USA) **IP**

The Wharton School, University of Pennsylvania (USA) **IP**

南米

FGV São Paulo (Brazil) **CoBS**



半学半教を実践するゼミナールで、さらに専門を極める。

慶應義塾の「半学半教」の伝統を最も色濃く受け継ぎ、2年次の学びの中核に位置づけられるのがゼミナールです。

KBSのゼミナールでは、少人数による、密度の濃い議論を通じ、自ら問題を発見し最先端の理論や技法を駆使しながら問題解決を図る、といった形で修士論文の執筆が行われます。MBA課程の後半には高度な専門科目を選択履修するほか、本研究科内のゼミナールから一つを選んで所属し、各専門分野で研究者として高く評価されている指導教員の助けを得ながら修士論文を完成させます。各ゼミナールの定員は概ね4～7名であり、マスプロ教育では得られない非常に濃い密度のインタラクションが可能です。少人数ゆえに、修士論文の内容をめぐる議論に加え、主に経営技法を扱う通常のクラスではなかなか掘り下げられない世界観や歴史観、あるいは人生観、さらには文化と教養などについても話し合う機会が珍しくありません。また、ゼミナールの先輩後輩のつながりも強く、在学中に限らず修了後も互いの成長の刺激となる貴重な人脈を形成することができます。

ゼミナール紹介



小林 喜一郎 教授

戦略論・イノベーション

昨今、企業をめぐる競争環境が大きく変化し、今まで通用してきた方法論が大きく揺らぎ始めています。従来とは桁違いのスピードで起きる変化、膨大な市場ポテンシャルを持つ新興国への展開の必要性、新たな競合としての新興国巨大企業の台頭、経済活動と社会との親和性を重視したサステナビリティ経営の重視等、様々な企業経営上の 이슈が取りざたされる中、企業はグローバルな視点でのユニークなポジションの設定、その達成に向けての世界規模での資源の再配置、経営管理システムの変更、が求められています。こうした認識のもと、本ゼミナールでは戦略論をベースとし、絶えずグローバルな視点から、従来の業界枠を超えた新しい競争ルールをどう確立していくべきなのか、将来に向けてどうやってイノベーションを起こすべきか、を常に中心課題として議論しています。



福田 幸弘 2012年経営管理研究科入学 大手都市銀行 企業派遣

「一生付き合っている仲間を募集しています」。Competition & Strategyの権威である小林先生の想いに共感したこと、超優良企業を企業戦略の側面から考察したいこともあり、導かれるまま、小林ゼミの門を叩きました。毎回のゼミでは、先生やメンバーより様々な指摘・質疑・指導をいただくため、相当な準備が欠かせません。最近では、専門知識の獲得はもちろんのこと、自身に専門性という軸が生じるためか、KBSで得た数々の知識を一枚の大きなキャンパスにマッピングできているなど実感します。また、次々と意思決定を迫られる実践型のケース型授業との相互補完性に気づかされます。小林ゼミでは白熱した議論の後に、皆でランチを囲みます。そこには、私的な相談にも真剣かつ丁寧に指導くださる先生がおられます。ゼミで過ごす濃密な時間が信頼関係を醸成し、互いを「一生付き合える仲間」の関係へ導いてくれるのは、まず間違いのないことと感じています。

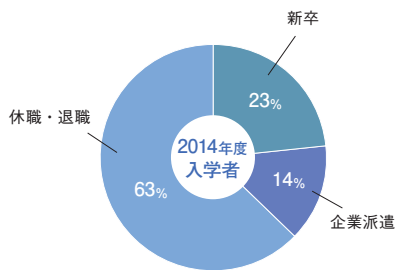
KBSでの濃密な2年間で新たな自分を発見する。

1年次は月曜から金曜までのほぼ毎日、終日グループ討論、クラス討論、講義があり、2年次はゼミナールと修士論文の執筆が学習の中核となります。これだけの時間を学友、教員と過ごすことで、一生続く人的ネットワークを築くことができます。こうして得たさまざまな出会いを通じて自身の世界を広げ、今まで気付かなかった能力・可能性を発見することになるでしょう。

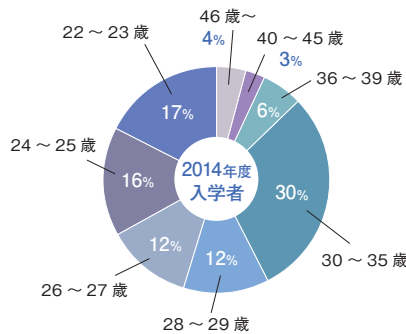
第1学年			第2学年		
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
4月～8月	9月～12月	1月～3月	4月～8月	9月～12月	1月～3月
基礎科目 (32単位)			ゼミナール (6単位)		
専門科目 (20単位以上)					
入学合宿			国際プログラム		
			ビジネス・ゲーム合宿 (2単位)		
			修士論文発表会		
			学位授与式		

学生プロフィール 多様性あふれるバックグラウンド

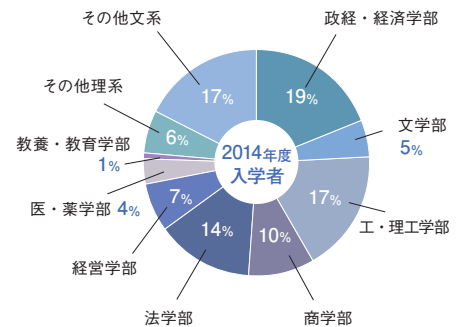
経歴



年齢



出身学部



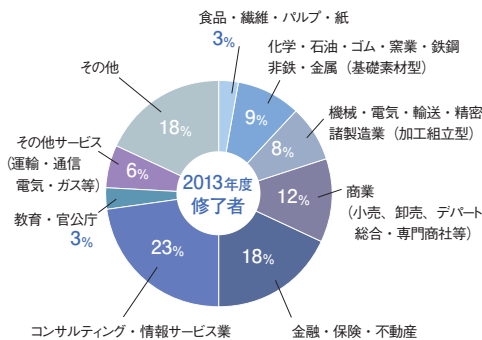
キャリア

キャリア形成をサポートする就職支援体制

KBSでは、修士課程修了後に就職・転職を考えている学生を対象に、学生のニーズに合ったきめ細かいキャリアサポートを行っています。入学後間もない段階から、キャリアについて具体的に考えるセミナーやガイダンスを提供しているほか、企業説明会の開催や個別のキャリア相談を通じて一人ひとりのキャリア形成を支援しています。

- 就職支援専門スタッフの配置
- 就職ガイダンス・キャリア形成支援セミナーの開催
- 企業説明会（随時）の開催
- 求人・インターンシップ情報の紹介
- 転職エージェントの紹介
- 修了生情報の提供

進路（業種別）



直近3年間の主な進路（順不同・就職の場合・企業派遣者は除く）

2011年度

- マッキンゼー&カンパニー
- ポストンコンサルティンググループ
- ローランドベルガー
- アクセンチュア
- デロイトトーマツコンサルティング
- 博報堂コンサルティング
- NTTデータ経営研究所
- フロンティアマネジメント
- 日本IBM
- GE
- 三井物産
- 双日
- 日産自動車
- 住友スリーエム
- アマゾンドットコム
- アストラゼネカ 等

2012年度

- アクセンチュア
- アビームコンサルティング
- Google
- ジェイアイエヌ
- 大和証券グループ本社
- ドリームインキュベータ
- 日本能率協会コンサルティング
- 日産自動車
- 野村総合研究所
- 博報堂コンサルティング
- 三井住友信託銀行
- 三菱商事
- 楽天 等

2013年度

- Google
- アクサ生命
- ジェイアール東日本企画
- ソフトバンク
- チュリッパ・インジュアランス・カンパニー・リミテッド
- ファーストリテイリング
- ファイザー
- 伊藤忠テクノロジーベンチャーズ
- 協和発酵キリン
- 三井不動産
- 三井物産
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
- 三菱電機
- 三菱東京UFJ銀行
- 大塚製薬
- 電通
- 日本イーライリリー
- 日本たばこ産業 等

修了生の声



北上市真一

JTBビジネスインバーターズ 代表取締役常務

慶應義塾大学経済学部1981年卒業後、旧日本交通公社入社。社内公募による企業派遣で慶應義塾大学大学院経営管理研究科1992年修了。帰社後は、主に新規事業や新サービス・業態開発に携わり、1994年にJTBホームページおよびeコマース事業の立ち上げを遂行。2006年のJTBグループ分社化に伴い、i.JTB代表取締役社長、JTB情報システム副社長を経て、2011年より現職。

後期博士課程

研究者への道

後期博士課程は、高等教育機関や研究機関の研究者として、あるいは研究・教育機関以外の各種専門機関において高度な専門家として活躍することを目指す方のためのコースです。出身大学大学院修士課程の専攻分野を問わず、経営学分野への旺盛な勉学意欲と問題意識を持ち、高度な学識と識見を積みたい方を歓迎します。

本研究科は全日制の大学院です。原則的に週日はキャンパスで授業に出席することが求められます。

カリキュラム

経営管理に関する専門科目を履修することに加え、9つの【研究教育分野】から自分の研究領域を2つ選択し、ケースの開発および事例研究論文を作成発表すること、そして総合試験の合格、プロポーザル作成、博士論文作成・合格により、博士(経営学)学位を取得することができます。



9つの【研究教育分野】

総合経営政策	マーケティング	生産政策
経営財務	経営環境	マネジメントシステム
マネジリアルエコノミクス	会計	組織行動

3年間のスケジュール

1年次	2年次	3年次
■ 2研究領域決定		
■ 指導教授決定		
■ 特別演習科目 ※		
■ 事例研究発表会		
■ プロポーザル審査		
■ 総合試験 (2研究領域)		
■ 博士論文審査		
■ 学位授与式		

※特別演習科目は、博士學位論文の指導と、その基礎となる理論研究、事例調査、各種演習を内容とする科目です

KBS同窓会

社中とのつながり

→WEB <http://www.kbs-obkai.com/>

慶應義塾では、学生を塾生と呼び、卒業・修了生を塾員と呼びますが、これに教職員をあわせて一つのカンパニーの構成員であり、福澤諭吉はこれを「社中」という言葉で表現しました。

KBS同窓会は総会員数約3,500名を抱える大きな組織で、修了生の名簿を管理・公開しているほか、メールマガジンの発行、年1回の総会やMBAカフェ、ストラテジックインサイトセミナー(SIS)などのイベントを開催し、幅広い活動を行なっています。KBSの修了生は共に学生生活を過ごした同期と強い絆で結ばれるのはもちろんですが、KBS同窓会の活動を通じて縦のネットワークを形成します。また、慶應義塾の卒業・修了生の同窓会組織である「三田会」の一員として、業種、職種、国境を越えた有形、無形の価値を得ることができます。

KBSでの勉強は厳しかったため、皆で乗り切って卒業しようという支え合いが生まれ、戦友ともいうべき同期の強い絆になっています。卒業後も年数回の勉強会を10年間続けました。講師は持ち回りで、各自の職務内容に沿ってその時々々の悩みや課題を共通化し、ケース討議のように議論する形式です。単なる趣味での集まりとは違い、KBSの仲間ならではの話題や気づきがあり、互いのキャリア形成に大きな刺激になりました。勉強会形式を取ら

なくなった現在でも、飲み会や旅行など交流は盛んです。ゼミ関係では、年1回の総会の他、年数回~10回程度の勉強会で講師を招き、勉強をしています。去年は20周年だったので歴代OBが130名以上集まりました。また、私はKBSでの出会いから同期と結婚しました。戦友同士であり、互いのキャリアを尊重し合える関係です。価値観や思考ロジックも似ており、本当に良い人生のパートナーに巡り合えたと思っています。

最先端の経営理論を、最高の教授陣から学ぶ。

人口の減少、為替レートの変動、成長著しい新興国との競争など、激変する経営環境に柔軟に対応できる高い能力を獲得するためには、経営の広い分野にわたる確かな基礎的スキルと高い専門性を獲得しなければなりません。それは一流の教員から学ぶことによって可能になります。KBSの教授陣は、常に最先端の経営理論を研究し、ビジネス界との交流を通じて現実の経営に応用しています。慶應義塾の伝統である実学の精神のもと、最高の教授陣から学び、自らも知識と経験を仲間と共有することにより、リーダーへの道を歩みます。

(2014年5月現在)

生産		河野 宏和 KONO, Hirokazu	教授 / エーザイチェアシップ基金教授 / 経営管理研究科委員長 / ビジネス・スクール校長
			1980年慶應義塾大学工学部管理工学科卒業、1982年同大学大学院工学研究科修士課程修了、1987年博士課程単位取得退学、1991年工学博士（慶應義塾大学）取得。1987年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助手、1991年助教授、1998年教授となる。2009年10月より、慶應義塾大学大学院経営管理研究科委員長、慶應義塾大学ビジネス・スクール校長を務める。1991年7月より1年間、ハーバード大学ビジネス・スクール訪問研究員。AAPBS（アジア太平洋ビジネススクール協会）会長、日本経営工学会副会長、TPM優秀賞審査委員、IEレビュー編集委員長。 専攻分野：生産政策、生産マネジメント、生産管理論、経済性工学
会計		坂爪 裕 SAKAZUME, Yu	教授
			1989年慶應義塾大学文学部人間関係学人間科学専攻卒業、アンダーセン・コンサルティング（現：アクセンチュア）、（株）さくら総合研究所（現：日本総合研究所）を経て、2001年京都産業大学経営学部専任講師、2004年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師、2006年助教授、2012年教授、2004年博士（経営学）（慶應義塾大学）取得。 専攻分野：生産政策、生産マネジメント
財務		太田 康広 OHTA, Yasuhiro	教授
			1992年慶應義塾大学経済学部卒業、1994年東京大学より修士（経済学）取得、1997年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、2002年ニューヨーク州立大学バッファロー校スクール・オブ・マネジメント博士課程修了、2003年Ph.D. (management) 取得、2002年ニューヨーク大学ジョセフ・E・アトキンソン教養・専門研究学部管理研究科専任講師、2003年助教授を経て、2005年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授、2007年准教授、2011年教授。 専攻分野：分析的会計研究
マーケティング		村上 裕太郎 MURAKAMI, Yutaro	准教授
			2000年上智大学経済学部経済学科卒業、2002年大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了、2006年同後期課程修了（博士（経済学）（大阪大学））。名古屋商科大学会計ファイナンス学部専任講師を経て、2009年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。 専攻分野：分析的会計研究、税務会計
マーケティング		小幡 績 OBATA, Seki	准教授
			1992年東京大学経済学部卒業、大蔵省（現財務省）入省、1999年退職。2000年IMF、2001年～2003年一橋大学経済研究所専任講師。2001年Ph.D.（経済学）（ハーバード大学）取得。 専攻分野：企業金融、行動ファイナンス、NPO、政治経済学
マーケティング		齋藤 卓爾 SAITO, Takuji	准教授
			2000年一橋大学経済学部卒業、2001年同大学大学院経済学研究科修士課程修了、2004年博士課程単位取得退学、2006年博士（経済学）（一橋大学）取得。2004年～2007年日本学術振興会特別研究員（PD）、2007年京都産業大学経済学部講師。2009年准教授を経て、2012年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。 専攻分野：コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、企業経済学
マーケティング		高橋 大志 TAKAHASHI, Hiroshi	准教授
			1994年東京大学工学部卒業。1994年～1997年富士フィルム（株）研究員。1997年～2005年三井信託銀行（株）（当時）シニアリサーチャー。2002年筑波大学大学院修士課程修了。2004年同大学大学院博士課程修了（博士（経営学）（筑波大学））。2005年～2008年岡山大学准教授。2007年キール大学客員研究員。2008年より慶應義塾大学経営管理研究科准教授。 専攻分野：企業財務、ファイナンス、アセットプライシング
マーケティング		井上 哲浩 INOUE, Akihiro	教授
			1987年関西学院大学商学部卒業、1989年同大学大学院商学研究科博士課程前期課程修了、1992年同後期課程単位取得退学、1996年Ph.D.（経営学）（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）。関西学院大学商学部専任講師、助教授、教授を経て、2006年慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。 専攻分野：マーケティング・マネジメント、マーケティング・サイエンス、マーケティング・コミュニケーション・マネジメント
マーケティング		坂下 玄哲 SAKASHITA, Mototaka	准教授
			1999年神戸大学経営学部卒業、2001年同大学大学院経営学研究科博士前期課程修了（修士（商学））、2004年同後期課程修了（博士（商学））。上智大学経済学部経営学科専任講師を経て、2007年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授となる。 専攻分野：ブランド・マネジメント、消費者行動
マーケティング		山本 晶 YAMAMOTO, Hikaru	准教授
			1996年慶應義塾大学法学部政治学科卒業、外資系広告代理店勤務を経て、2001年東京大学大学院経済学研究科修士課程修了。2004年同大学院博士課程修了。博士（経済学）。東京大学大学院経済学研究科助手、成蹊大学経済学部専任講師および准教授を経て、2014年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。 専攻分野：インターネット・マーケティング、マーケティング・マネジメント、消費者行動
マーケティング		余田 拓郎 YODA, Takuro	教授
			1984年東京大学工学部卒業。住友電気工業（株）勤務を経て、1998年名古屋国立大学経済学部専任講師。2000年同学部助教授を経て、2002年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授、2007年教授。1999年博士（経営学）（慶應義塾大学）取得。商品開発・管理学会会長。 専攻分野：マーケティング戦略、ビジネス・マーケティング、事業戦略

組織・マネジメント



浅川 和宏

ASAKAWA, Kazuhiro

教授 / 三菱チェアシップ基金教授

1985年早稲田大学政治経済学部卒業、(株)日本興業銀行勤務を経て、1991年MBA(ハーバード大学)。1996年PhD.(経営学)(INSEAD)。1995年慶應義塾大学大学院経営管理研究科准専任講師。1997年助教授。2004年教授。同年MIT客員研究員。2005-2010年(独)経済産業研究所(RIETI)ファカルティ・フェロー。2011-2012年度文部科学省科学技術政策研究所(NISTEP)客員研究員。2009-2010年APJIM誌 Senior Editor。2009年より米Global Strategy Journal誌のAssociate Editor。米Journal of International Management、Journal of International Business Studies及びAcademy of Management Perspectives誌のEditorial Board。2013年より米Academy of International BusinessのJapan Chapter Chair。
専攻分野: 多国籍企業論, 組織理論, グローバル・イノベーション論



大藪 毅

OYABU, Takeshi

専任講師

1992年京都大学経済学部卒業。1996年京都大学大学院経済学研究科修士課程修了。1997年ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス産業関係学部留学。この間、新日本製鐵株式会社、(社)関西国際産業関係研究所に勤務。2003年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師。2006年より慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科、2008年より慶應義塾大学医学部講師を兼任。2010年博士(経営学・京都大学)取得。
専攻分野: 人的資源管理論, 労働経済学, 医療管理学



清水 勝彦

SHIMIZU, Katsuhiko

教授

1986年東京大学法学部卒業。1994年MBA(ゲートマス大学エイモス・タックスクール)取得。コーポレートディレクション(プリンシプルコンサルタント)を経て、2000年Ph.D.(経営学)(テキサスA&M大学)取得。同年テキサス大学サンアントニオ校助教授。2006年准教授(テニュア取得)。Academy of Management Journal、Strategic Management Journal、Journal of Management Studies、Journal of International Management of the Editorial Boardを務める。2010年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。
専攻分野: 組織マネジメント, 企業変革, M&A, 戦略実行・変更



林 洋一郎

HAYASHI, Yoichiro

准教授

1996年慶應義塾大学文学部人間関係学人間科学専攻卒業。1998年東北大学大学院文学研究科前期博士課程修了。2001年東北大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。2004年学位取得(博士・文学、東北大学大学院文学研究科)。2006年名古屋商科大学経営学部准教授。2007年法政大学キャリアデザイン学部准教授を経て、2014年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。
専攻分野: 産業・組織心理学, 組織行動, 社会心理学



渡辺 直登

WATANABE, Naotaka

教授 / トヨタチェアシップ基金教授

1975年名古屋大学教育学部卒業。東京勤務を経て、1980年名古屋大学大学院教育学研究科修士課程修了。1985年イリノイ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了(Ph.D.)。南山大学経営学部助手、講師、助教授を経て、1998年慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。
専攻分野: 組織心理学, 心理測定論

情報・意思決定



安道 知寛

ANDO, Tomohiro

准教授

2000年九州大学理学部数学科卒業。2002年同大学大学院数理学府修士課程。2004年博士課程修了(博士(数理学))。2005年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師。2007年准教授。
専攻分野: 経営科学



大林 厚臣

OBAYASHI, Atsuomi

教授 / 松下幸之助チェアシップ基金教授

1983年京都大学法学部卒業。日本郵船(株)勤務を経て、1996年Ph.D.(行政学)(シカゴ大学)取得。同年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師。1998年助教授。2006年教授。この間2000~2001年スタンフォード大学客員助教授。2001~2006年社会技術研究システム研究員。2007~2011年慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所上席研究員を兼任。
専攻分野: 経済学, 産業組織論, リスク・マネジメント



林 高樹

HAYASHI, Takaki

教授

東京大学工学部卒業。同大学大学院工学系研究科修士課程修了。日本興業銀行勤務後、コロンビア大学統計学部助教授を経て慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授。2009年教授。Ph.D.(統計学)(シカゴ大学)取得。
専攻分野: 計量ファイナンス・金融工学, 応用確率論

経営環境



姉川 知史

ANEGAWA, Tomofumi

教授 / 富士通チェアシップ基金教授

1977年東京大学経済学部卒業(経営学)。1980年同大学大学院経営学研究科修士課程(経営学)。1983年博士課程単位取得退学(経営学)。1983年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助手。1991年助教授。1999年教授。医学研究科委員(2005年より)。この間、1991年イェール大学経済学博士課程修了。経済学博士Ph.D.取得。
専攻分野: 企業経済学, 応用ミクロ経済学, 国際経営, 医療経済学



中村 洋

NAKAMURA, Hiroshi

教授

1988年一橋大学経済学部卒業。1996年スタンフォード大学博士課程修了(Ph.D.(経営学))。1996年慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師。1998年助教授。2005年教授。
専攻分野: 経済学, 産業組織論(ライフサイエンス, ヘルスケア, IT), 経営戦略論

総合経営



磯辺 剛彦

ISOBE, Takehiko

教授

1981年慶應義塾大学経済学部卒業。1981年(株)井筒屋。1991年経営学修士(慶應義塾大学)。1996年博士(経営学)(慶應義塾大学)。1996年流通科学大学商学部助教授。1999年教授。2005年神戸大学経済経営研究所教授を経て2007年慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授。この間、1997年スタンフォード大学ビジネススクールに客員研究員として留学。2008年(一財)企業経営研究所(スルガ銀行)所長。Asia Pacific Journal of Management誌のAssociate Editor、Journal of International Management誌、Management International Review誌のEditorial Board。1999年中小企業研究奨励賞(商工総合研究所)。2004年及び2006年Winner: Best Paper Awards (Asia Academy of Management Conference)。2010年国際ビジネス研究会賞、義塾賞。
専攻分野: 経営戦略, グローバルマネジメント



岡田 正大

OKADA, Masahiro

教授

1985年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。(株)本田技研工業を経て、1993年修士(経営学)(慶應義塾大学)取得。Arthur D. Little (Japan)を経て、米国Muse Associates社フェロー。1999年Ph.D.(経営学)(オハイオ州立大学)取得。2002年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授を経て、2007年准教授。2013年教授。
専攻分野: 経営戦略論



小林 喜一郎

KOBAYASHI, Kiichiro

教授

1980年慶應義塾大学経済学部卒業。1989年慶應義塾大学経営学修士(MBA)。1989年より1993年迄、㈱三菱総合研究所・経営コンサルティング部主任研究員。1996年博士(経営学)(慶應義塾大学)取得。1997年4月より、ハーバード大学ビジネススクールへ留学。2000年、慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授。2006年教授。2001年~2006年フランスReims Management School客員教授。
専攻分野: 経営戦略論, 組織戦略論

入学試験概要

2015年度入学 修士課程 一般・国際プログラム重視・企業派遣者対象 入試概要

多様性に富んだクラス実現のために、2015年度より「一般入試」のほかに「国際プログラム重視入試」「企業派遣者対象入試」の2種類の入学試験オプションを新たに提供します。

	秋期募集	春期募集
出願期間	2014年9月18日(木) 10:00 ~ 10月6日(月)	2014年12月25日(木) 10:00 ~ 2015年1月19日(月)
第一次試験合格発表	2014年10月15日(水) 13:00	2015年1月28日(水) 13:00
第二次試験 (筆記試験・面接試験)	筆記試験 2014年10月18日(土) 面接試験 2014年10月18日(土) または19日(日)	筆記試験 2015年1月31日(土) 面接試験 2015年1月31日(土) または2月1日(日)
第二次試験合格発表	2014年10月22日(水) 13:00	2015年2月4日(水) 13:00
入学手続期間	2014年10月22日(水) ~ 11月4日(火)	2015年2月4日(水) ~ 2月16日(月)

■ 募集人員 100名(秋期・春期合計)

■ 試験科目

- 第一次試験 提出された出願書類についての選考
第二次試験 【一般入学試験】筆記試験(小論文) および面接試験
【国際プログラム重視入学試験】面接試験(一部英語)
【企業派遣者対象入学試験】面接試験

■ 入学検定料 35,000円

■ 初年度納付金 2,217,600円

■ 出願資格

- 大学を卒業した者および2015年3月31日までに卒業見込みの者
- 大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者および2015年3月31日までに授与見込みの者
- 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2015年3月31日までに修了見込みの者
- 文部科学大臣の指定した者
- 外国において学校教育における15年の課程を修了した者および修了見込みの者、当該大学で履修した単位のうち、本研究科が定める所定の単位について、優れた成績をもって修得したものと認めた者
- その他、本研究科が大学学部を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに22歳に達する者

【一般入学試験】

- 前述の「出願資格」を満たしている者

【国際プログラム重視入学試験】

- 前述の「出願資格」を満たしている者
- 出願日からさかのぼって過去2年間に受験した試験結果がTOEFLiBT90点以上またはTOEIC860点以上の者
- 第一言語が日本語である者、または日本の大学(主たる指導言語が日本語で学士の学位を取得する課程)を卒業した者および2015年3月31日までに卒業見込みの者

【企業派遣者対象入学試験】

- 前述の「出願資格」を満たしている者
 - 本研究科が指定した企業・団体から派遣される者
- *企業派遣の実績のない企業はお問い合わせください

→ WEB <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/mba/application.html>

→ FAQ <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/faq.html>

2015年度入学 後期博士課程 入試概要

出願期間	2015年1月15日(木) 13:00 ~ 2月2日(月)	第一次・第二次試験	2015年2月14日(土)・15日(日)
合格発表	2015年2月18日(水) 13:00	入学手続期間	2015年2月18日(水) ~ 2月27日(金)

■ 募集人員 8名

■ 試験科目

- 第一次試験 筆記試験(専門科目・英語) および書類審査
第二次試験 面接試験

■ 入学検定料 35,000円

■ 初年度納付金 1,012,600円

■ 出願資格

- 大学院修士課程修了者および2015年3月修了見込みの者
- 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者および2015年3月授与見込みの者
- 文部科学大臣の指定した者
- その他、本研究科が修士課程を修了した者と同等以上の学力があると認めた者

→ WEB <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/phd/application.html>

慶應義塾大学 奨学・融資制度

慶應義塾大学では、研究の意欲を持ち、経済的な理由により修学が困難で、かつ成績・人物ともに優秀な学生を対象に、次のような奨学・融資制度を設けています。

日本人対象

名称	給貸別	金額
日本学生支援機構奨学金	第1種	貸与(無利子) 修士:5万・8.8万/月 博士:8万・12.2万/月
	第2種	貸与(有利子) 5万・8万・10万・13万・15万/月
慶應義塾大学大学院奨学金	給付	60万/年
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付	3万/月
指定寄付奨学金	給付	奨学金により異なる
民間団体・地方公共団体奨学金	給付・貸与	奨学金により異なる
慶應義塾大学教育ローン制度	融資	学期ごとの分納額の範囲内

留学生対象(慶應義塾大学国際センター HPを参照してください)

名称	給貸別	金額
学習奨励費	給付	6.5万/月
慶應義塾大学大学院奨学金	給付	15 ~ 45万/年
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付	3万/月
未来先導国際奨学金	給付	学費全額免除、生活費20万/月、他

→ WEB <http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/shogaku/system.html>

入試過去問題閲覧について

修士課程および後期博士課程入試過去問題は、日吉学生部大学院事務室にて閲覧できます(複写不可)。閲覧の際は身分証明書をご持参ください。

窓口対応時間 平日 8:45 ~ 16:45

*土曜日・日曜日・祝日・義塾が定めた休日および事務室の休業期間中は閉室となります。


*8月11日~8月17日および12月28日~1月5日の期間については、閉室となります。

お問い合わせ

慶應義塾大学日吉学生部 経営管理研究科担当

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

Tel : 045-564-2441 E-mail : gakuks@info.keio.ac.jp

 KeioBusinessSchool1962

 KBS1962

<http://www.kbs.keio.ac.jp/>